

平成 23 年度 学校経営の基本方針

教育目標

あかるく …… 明朗で思いやりのある子どもを育てる。
つよく …… 健康でねばり強くやりぬく気力ある子どもを育てる。
かしこく …… よく考え、進んで学ぶ子どもを育てる。

自分もみんなも
明るく うれしく
よかったね！



1 人権教育、同和教育を柱にした学校づくり

(1) 同和教育を中核とした人権教育を教育の基本と考え、職員も自らの人権感覚を磨き、人権教育、同和教育を推進します。

人権教育、同和教育は、一人一人の子どもを大切に、自己実現を目指すという教育の基本です。県や市の「学校教育の重点」でも重視しています。

学校では、人権教育、同和教育を学校教育の核として、グランドデザインに位置付け、「自立と共生」の精神を大切に、自己選択、自己決定の場面を様々な教育活動の中で取り入れること、人とのかかわりを大切にするを重視しています。

そのために、計画的な研修と授業実践を行うとともに、職員一人一人が人権感覚を磨き、一人一人の子どもに寄り添う支援に力を入れていきます。

(2) 学級や集団の中で、互いを認め合い励まし合う温かい人間関係を築きます。

人権教育、同和教育を進めるには、子どもたちが安心して学べる環境づくり、人間関係づくりが重要です。県や市の「学校教育の重点」でも、社会性の育成や社会的自立力の育成を重視しています。

そのために、「アカデミック・スキル」や「ソーシャル・スキル」が身に付くよう、学年に応じた指導を行うとともに、縦割り活動や児童会活動、あいさつ運動、道徳授業などに力を入れます。

「アカデミックスキル」

学習の準備をして席に着く、話をしっかりと聞く、手を上げて発言するなど、集団で学習するために必要な技能、学習ルール。授業等で指導しています。

「ソーシャルスキル」

あいさつをする、共感する、賞賛するなど、人間関係を築き保つ技能、学級での指導とともに、全校で行う「全校SST」も計画的に行っています。

(3) 一人一人の存在を丸ごと認め、自尊感情を高めます。

「自分って、案外捨てたもんじゃない」「自分にも、いいところがある」「自分もみんなの役に立つんだ」と、一人一人が思えるような学級づくり、授業づくりを進めます。自尊感情が高まると、他者を大切にできる心も育ちます。

そのために、子ども一人一人の存在そのものを丸ごと認め、失敗や望ましくない行動は、一人一人が成長していくための指導の好機であるというスタンスに立ちます。「困った」子どもではなく、「困っている」子どもととらえ、保護者や関係機関と連携し、チームで解決・改善の方法を考え、実践します。

(4) 特別支援教育の理念を教育活動に生かします。

特別支援教育の理念は、子どもたち一人一人の違いや良さを認め、一人一人に寄り添い、自尊感情を高めながら、自己実現に向けて支援していこうとするものです。一部の子どものだけでなく、どの子どもにも優しい支援になります。

一人一人の子どもが知識や技能、やる気を得ることができるようにするために、「授業のユニバーサルデザイン」の考え方を生かしながら、よりよい授業を目指します。

(5) 子どもたちの「学び合う力」に依拠し、育てます。

子どもたちが学ぶ様子を見ていると、仲間の一言で「あっ、そうか」と納得する姿を見ることがあります。また、他の子どもの様子や言動を見聞きしながら自分のものにするという学び(真似び)もよくしています。

こうした子ども同士の学び合う力が一層育つように、「みんなが分かる、できるようになること」を学級の共通目標とした上で、学習の目標を子どもたち全員で共有します。そして、学習過程で個々の気づきを紹介するなどして可視化し、目標が達成できたかどうか評価するといった「目標と学習と評価の一体化」を大切にしていきます。また、学習形態や学習過程などを工夫します。

このような学習を進める中で、「みんなで学ぶ楽しさ」「みんなが分かる喜び」を実感させることができます。学校生活の大部分を占める授業の中で人間関係づくりの力を付け、コミュニケーション能力や思考力、表現力を高めていきます。

2 家庭や地域と共に、学校づくり

家庭や地域の皆様と課題を共有し、互いの役割を確かめ合い、パートナーとしての連携・協力関係の充実を一層図っていきます。そのために、次のことに力を入れます。

- (1) 積極的にコミュニケーションを図り、具体的な行動連携を進めます。
- (2) 地域に根ざした教育活動を進める中で、子どもたちが将来に向けての夢や目標をもち、視野を広げていくことができるようにします。
- (3) 幼稚園・保育園、他小学校、中学校、関係機関との連絡を密にします。

3 「創意」「相違」「総意」を大切にした職員集団づくり

子どもたちの成長をはぐくむためには、何よりも職員の同僚性(支え合う関係、協働性)が不可欠です。それぞれの特性と意欲を大切にし、創意ある実践を進め、互いの相違に学び合いながら、総意に基づく取組を進めます。全職員がいろいろな場面で子どもたちとかかわり、一人一人の子どもの成長のために全力を尽くします。